

原発事故後に福島県の酒蔵の当主が立ち上げた会津電力。放射能汚染によって居住制限区域となった飯館村で畜産農家が立ち上げた飯館電力。岐阜県郡上市の石徹白、集落の存続のために100世帯全戸が出資をした小水力発電。さらに首都圏の消費者と地方の農家、食品加工業者が連携して進めている秋田県にかほ市の市民風車。自立を目指し、森林資源を生かしたビジネスを立ち上げる岡山県西栗倉村の取り組み。都市生活者、地方への移住者、被災者、それぞれがエネルギー自治を目指すことで、お金やモノだけでなく、生きがい、喜びに満ちた暮らしの風景が生まれている。成長・拡大を求め続けてきた現代社会が見失った、これからの時代の「豊かさ」を静かに問いかける物語。

自分とは、これで幸せかという問いがちゃんと真ん中にある。これは革命と言ってもいい。でも、今まで多くの人が想像してきた革命とは全然違うものなのではないか

辻信一（文化人類学者）



秋田 Akita

日本海からの風が吹く、にかほ市にたつ大きな風車。生活クラブ生協が、この風車を起点にしたコミュニティづくりを続けている。地域にあたりまえに吹く風は、首都圏と地域の作り手を繋いでいった。



岡山 okayama

地域の間伐材を使って若者が起業・移住する1500人の西栗倉村。見向きもされなかった森林は、地域の温泉施設の熱源に、美しい家具に、そして地域のつながりの中心に。



福島 Fukushima

福島県には、震災後に2つの電力会社が誕生した。立ち上げたのは、原発事故により全村避難になった飯館村の元畜産農家と、綺麗な水で有名な喜多方市の酒蔵の当主。故郷を次の世代に繋いでいくための、二人の決意、葛藤とは。



岐阜 gifu

郡上市にある約100世帯の小さな集落、石徹白。伝統的な文化や暮らしを大切にする移住者を起点に、地域に残る農業用水路で小水力発電事業が立ち上がる。地域の価値に気づき始めた地元住民との、懐かしくて新しい未来づくりが始まっていく。



Introduction

自然と向き合い、人と向き合い、地域と向き合いながら、これからの暮らしを自らの手で作っていくとする人たちがいる。そんな彼らの、穏やかな、そして力強い挑戦の姿を追ったのは、前作『よみがえりのレシピ』で、高度経済成長期に見捨てられてしまった伝統野菜のタネをめぐる物語を描いた渡辺智史監督。各地で始まる「暮らしの選択」、その先にある未来の風景を見据えながら、懐かしくも新しい時代への入口へと観客を誘う。

この映画には、静かに力強く、ふつふつと湧き上がってくる力があります。その力はあまりにも美しく、切なく、愛に満ちていて、胸が締め付けられそうにもなります。でも、そこに「光」を感じます。パンドラの箱に残った「希望」のように。

—— 鶴田真由（女優）



ナレーション：鶴田真由 | 監督・編集：渡辺智史 | 撮影：佐藤広一 | 音楽：鈴木治行 | MA：中野坂上スタジオ | 協力：高橋真樹
 2017年 / 日本 / 100分 / カラー / DCP・Blu-ray | 配給・製作：いでは堂 | 特別協賛：一般財団法人ふくしま自然エネルギー基金
 取材協力 会津電力、飯館電力、石徹白農業用水農業協同組合、生活クラブ生活協同組合、西栗倉・森の学校、村楽エナジー、枝廣淳子、辻信一、広井良典ほか
 《映画「おだやかな革命」公式HP》<http://odayaka-kakumei.com> @odayakakakumei

〒395-0041 長野県飯田市中央通り1-5
イダセンゲキシネマズ
<http://www.sengeki.co.jp>
 TEL 0265-22-1070